

## 第1回生命の海科学館見直し検討委員会準備会記録

[ 開会 午後3時10分 ]

### 1 開会

〔鈴木委員から遅刻連絡有〕

〔第1回目の準備会であるため、司会及び会長選任までの議事進行を情報ネットワークセンター長が務める〕

### 2 企画部企画広報課長あいさつ

### 3 議題

#### (1) 生命の海科学館見直し検討委員会準備会設立の趣旨説明

〔2 あいさつ及び3 (1)を併せて企画広報課長から〕

企画広報課長

- ・市長マニフェストの実現のために設立することになった3つの検討委員会の1つ。
- ・生命の海科学館のあり方については、厳しい財政状況の中、赤字である科学館は廃止したらどうかの声と、科学館は、本来、収益を求める施設ではなく、価値ある施設だから利用が増えるように運用を見直したらどうかの声の両極端の意見がある。
- ・情報ネットワークセンター・生命の海科学館は、市の情報化推進の中核機能を担う部門である「情報ネットワークセンター」と、科学館部門である「生命の海科学館」を併せ持つ複合施設である。機能的に科学館部門、情報推進部門が相互に入り組んでおり、明確に区別しづらい施設となっている。科学館のあり方の議論は、こうしたことを踏まえて進めていただく必要がある。
- ・施設の建設に当たっては、国の補助金をもらっており、廃止あるいは転用するに当たっては、何らかの制限を受ける可能性がある。また、建設に当たっては、著名な建築家に依頼しており、転用、構造変更に関係で建築家との協議・承諾が必要となる。

科学館の見直しは、以上のようないろいろな意見、諸々の制約事項がある中で協議いただくことになり、いろいろな立場の方にいろいろな角度から冷静な目で判断していただく必要がある。そのために、市役所が勝手に決めた委員メンバーで進める検討委員会とせず、委員の構成を含めた検討の方向を事前に協議いただいた上で、見直し検討委員会を設置するよう準備会を設けた。

#### (2) 委員自己紹介

〔各委員自己紹介〕

伴 委員

松本 委員

岡本 委員

永田 委員

遠山 委員

小笠原委員

(3) 生命の海科学館見直し検討委員会準備会要綱（案）の説明

〔情報ネットワークセンター長から配付資料要綱（案）各項目について説明〕

〔（案）についての意見・異議なし〕

〔（案）承認、要綱決定〕

(4) 会長の選任

〔委員の互選により伴委員を会長に選任〕

(4-2) 副会長の選任

〔議題(5)に先立ち、会長が要綱第3条第4項の規定に基づき、副会長の指名を行う。松本委員を副会長に指名〕

〔委員の異議なし〕

〔松本委員を副会長に選任〕

(5) 館内視察（概要説明）

〔館内視察に先立ち、会長が配付資料について事務局に説明を求める〕

〔情報ネットワークセンター長が資料内容を説明〕

〔鈴木委員到着のため自己紹介〕

〔資料についての質問は館内視察終了後に行うこととし、館内視察を行う〕

〔館内視察 15：45 から 16：30〕

〔会議再開〕

委員質問・回答

委員

来館者数はどのようなか。

事務局

18年度の1日平均で、科学館が62人。センター側が94人となっている。

委員

施設運営の採算を取るためには、1日何人の来館者が必要か試算したことはあるか。

事務局

赤字、黒字の論点では、科学館は年間4千万円の赤字と言うことになる。しかし、科学館や美術館の収益率は、一般的にコストの2割が目安と言われており、そこからすれば大きく外れてはいない。利益を上げるための施設なのかどうかを含め、今後議論していただきたい。

委員

用途変更の許可は下りるのか。

事務局

具体的な内容が決まらないとはっきりとした回答は得られないが、補助金、起債によって建設されており、返還を求められる等何らかのペナルティを受ける可能性がある。

委員

郵政省からの補助金は、要望を出せば何とかなる、返還しなくても良い、用途の変更は、設計者との契約が問題だと教育委員会で説明を受けた。

(旧郵政省：現総務省)

事務局

教育委員会が言う返還不要の根拠が分からない。補助金を受けたものの目的変更には何らかの制約があるのが通常である。

委員

赤字と言われている年間約4千万円が市民にとってプラスとなるものなら存続も可能と思う。施設のリフォーム、観光ポスターへの掲載など考えたことはあるか。

委員

存続、廃止などの具体的な内容は、検討委員会をお願いしたい。準備会は、そうしたこ

とを検討していただくためにはどのようなメンバーが良いのかを考えていくもの。

#### 委員

各学校へのPR、県内だけでなく県外へのPRはどうしているのか。

#### 事務局

市内の方については教育施設としてのPRを行い、学校との連携を進めている。先生方への科学館催し物案内のメールマガジン配信やチラシの全校配布等を行っており、効果が見え始めている。また、市外の方については観光施設としてのPRを行い、ホテル・旅館にパンフレット・割引券の配置等をお願いしているが、より宣伝効果を高めるため各客室内へ置いていただけるようお願いしているところである。

市の厳しい財政状況を認識し、新しいコンテンツの作成、チラシのデザイン等を職員・スタッフの手作りで行っている。

#### 委員

多くの市民が期待している科学館の見直しは、これをぶち壊すことである。存続のための新しい催しを期待している市民はいない。

教育委員会・文化協会で、この会を施設の運営を考える会と考えている者はいない。だから私は、存続させるための会議ではないと思っている。

#### 会長

準備会は、検討委員会の委員の選び方や検討委員会の運営のあり方を協議していくための会。存廃や利用方法等の具体的内容については、検討委員会でご協議願いたい。

#### (6) 今後の検討スケジュールについて

〔事務局から今後のスケジュールの案について説明〕

- ・会議は月に1回程度開催。今回を含めて3回の協議で取りまとめを行い、20年3月を目処に市長へ結果報告していただくとありがたい。

〔次回は1月の下旬に開催〕

#### (7) その他

#### 4 閉会

[午後4時50分閉会]